

# のびのび



令和3年度校長室だより 7月20日号

湯田小学校の大切な言葉：あしたも会おうね 温かい学校 ～学び合い～

チャレンジ目標：湯田小ABC

## オリ・パラと夏休み

校長 藤井 智寛

明日から夏休みになります。子どもたちにとって昨年の臨時休校以来の長期の休みです。今年も夏休み中の行事やイベントの多くが中止や縮小となり、旅行などの県外への移動もコロナ以前のようにはいきません。そんな中、オリンピックやパラリンピックは、この夏の大きな国民的イベントです。それに関連して、今日の終業式では子どもたちに以下のような話をしました。

今年の夏休みは、ひよっとすると皆さんが50年たっても記憶している夏休みになるかもしれません。なぜならこの夏にオリンピック・パラリンピックが日本で行われるからです。いろんな種目をテレビなどで見るでしょうし、きっと感動的な場面もたくさんあるはずですよ。

私自身、日本でのオリンピックを体験するのは4回目です。1度目は前回の東京オリンピックで、この時はさすがに1歳くらいだったので何も覚えていません。2度目は北海道の札幌で行われた冬のオリンピックで、この時は小学校の2年生でした。スキージャンプで、日本が1位、2位、3位を独占し、それを真似してブランコに乗って友達とどこまで飛べるかを競って遊んだことを今でも覚えています。3度目は長野県で行われたやはり冬のオリンピックです。この時は、スピードスケートの中継を学校のテレビで見たことを覚えています。そして、23日から始まる東京オリンピックです。

人は感動したり興奮したりした時に、その時の自分の気持ちや行動などを一緒に記憶するそうなので、この夏休みの出来事はオリンピックやパラリンピックの記憶と一緒に50年後も覚えているかもしれません。その記憶が皆さんにとってよい夏休みの思い出であってほしいと思います。そのためには、なんとなく夏休みを過ごすのではなく、計画を立て、その計画を実行してみて、振り返りをすることが大切です。実際にやってみると、なかなか計画通りにいかないことも多いものですが、そこであきらめるのではなく、計画を見直してまた実行してみる。この繰り返しが必要です。皆さんが大人になった時に、東京オリンピック・パラリンピックがあったあの夏にこんなことをしたなあと楽しく振り返ることができる夏休みにしてほしいと思います。

自分の時間を有意義に使えるかどうかは大人になってからも必要な力です。自ら計画を立て、自らをコントロールしてその時間を有効に使っていく。大人でもなかなか難しいことですが、夏休みはこうした力を養うよい機会でもあります。自ら考え、自ら行動できる子どもたちが育つ夏休みであってほしいと思います。

## 6・7月 学校の様子



2022年が JRC 活動100周年になるのを記念して、5・6年生が JRC100周年用ポスターの写真を撮りました。(写真は人文字を作った5年生)



6年生が、市役所市民税課の方から、税金の仕組みや使われ方についてお話しをいただきました。1億円の束(指導用の偽札)を見て、そのかさにみんな驚いていました。



7月1日に学校運営協議会を行いました。11名の委員さんと本校教職員6名が参加し、コロナ禍の学校運営等についてご審議いただきました。



湯田中の総務委員(2年生)が、小学校の正門付近で10日程度あいさつ運動を行いました。中学生のすがすがしいあいさつに、小学生も刺激されたようでした。

この1年強く感じるのが、1日が無事に終わること、学期が無事に終わること、1年が無事に終わることの有り難さです。無事に終わるのは当たり前のことですが、今までの当たり前は決して当たり前ではないことをこのコロナ禍の中、痛切に感じます。1学期も参観日や運動会、あるいは水泳学習等でこれまでとは違う形となりご迷惑をおかけしました。それでも、無事1学期の終業式を迎えることができたのは、本校教職員の日々の努力はもちろんですが、保護者や地域の皆様のご理解・ご支援によるところも大きいと思います。ありがとうございました。

2学期も、すでに6年生の修学旅行先を広島県から県内に切り替えました。5年生の自然教室は、予定通り行うつもりですが、プログラムや施設での過ごし方は見直しが必要かもしれません。校内音楽会も例年通りの開催は難しいと思います。これまでの当たり前を見直しながら、来学期も今できることに全力で取り組みたいと思います。